

蓬萊町だより

第 三 号  
昭和 57 年 10 月 30 日 会 部  
発行 者 蓬 萊 町 文 化  
編 集 者 昭 和 文 化 会

根津神社今昔

根津神社宮司 内海 元

此度「蓬萊町だより」に産土神根津神社について書く様にとの御依頼をお受け致し、皆様に氏神様の事を知って戴く機会をお与え下さった事を奉仕する神職として誠に嬉しく存じ、日頃の御尽力に併せて厚く御礼申し上げます。

そもそも駒込の地は往古素盞烏山といわれた林で昔日本武尊が御父君景行天皇の命により御東征の折此処に多くの駒を集めさせられ、之を御覧になつて「駒込みたり」と仰せられたのに起ると伝えられて居りますが牛込と同じ様に牧場であつたのでしよう。さてこの時尊は征旅に大和国を出てから賊に焼け殺されさうになつたり、妃弟橘媛を海神の犠牲にしたりした数々の難苦を思い更に前途の多難を痛感せられ武勇の神素盞鳴尊をまつり、その責任の

達成を祈られたのが根津神社の創りと伝えられます。下つて文明年間太田道灌公は大神の鎮まり坐す此の林から楠の大木を船材として戴きその御礼に御社殿を奉納致しました。此の頃の御社の場所は只駒込林の中とだけで不詳ですが更に下つて万治年間には千駄木の太田撰津守邸地からすぐ東の地に移り元祿年間に更に徳川綱豊公が今の団子坂から本郷保健所の方に曲つてすぐ右側に移しました。此処を古老の方は今でも「元根津」と呼び神社所有地となつて居ます。

さて時の將軍徳川綱吉公は子供がなく、兄甲府宰相綱重公の子で前出の綱豊公（後の六代將軍家宣公）を嗣子に迎えました。此の時迄現在の社地は綱重公の江戸下屋敷で綱豊公は此の邸内で出生、現に社務所の庭には産湯の井戸が現存して居ります。かくて綱吉公は後嗣の定つたのは産土神様のお陰であると深く神恩に感謝し、その生邸を撤去壮大な御社殿御造営の工を興しました。即ち天下の大名が工費を拠出し、全国より名工をすぐり久世大和守重之、藤堂備前守高堅其他に奉行等を「御社殿」「唐門」「透

塀」「楼門」等の諸建物を奉建、工成るや宝永三年十二月、一品公辦法親王祭事を督して壮大な御遷座祭を齎行致しました。之等一連の建物は江戸期の代表的名神社建築として何れも国の重要文化財に指定されて居ます。

此の御遷座を終えて正徳四年九月江戸の前後に比類無き壮大華麗な祭典を齎行しました。即ち世に天下祭又御用祭と称せられ江戸全町が参加、將軍奉納の三基の神輿（現存）に供奉する行列には江戸中の町から合せて五十台の山車さんぐるが連り田安門より江戸城に練り入つて吹上にて將軍の拝礼を受けました。「根津権現祭礼儀式」に江戸各町より出された一番から五十番迄の山車の行列が示され、蓬萊町関係として第五番が駒込浅嘉町追分町の「神功皇后人形屋台、練り物鎧武者」第六番は駒込庁町による「練り物子供花籠七挺布袋の屋台」とあり、この五十台の内容を見ると当時の江戸全町民が競つて華麗な山車飾り物を作り競つた様子が分り「宝永まつりは見事のまつり、誰も見にゆけ、ゆきなばいざ、ちと又この世のうさはらし」という唄が広く歌われたという熱狂ぶりでした。

山車に町名が出て来たので話が移りますが「蓬萊町」の名前は明治になつてつけられたもので江戸時代には人の住んでいた町の構成が全く異なり当然今の町全体を呼ぶ一の町名はなく、之に相当する所は当時その大半を占める寺地、武家地の外に駒込四軒寺町と駒込片町、下駒込村、駒込、浅嘉町の各一部及び高林寺門前などで尚この行列書に四軒寺町は見えませんが、之は肴町から大観音に向つての道の右側に町屋が出来四軒寺町と呼ばれるようになったのが元文年間（一七三六）と言われまので二十年程時代差がある様です。下つて文政年間（一八一八〜三〇）の記録には根津権現の氏子町として廿ヶ町、その中に駒込片町、駒込浅嘉町、天栄寺門前、高林寺門前と共に四軒寺町が出て参ります。明治になつてから「蓬萊町」の名がつけられ今の大きさになる訳ですが中国の伝説の不老不死の仙人の住む山の名から取られたその名の通り御町内には御長寿者が多いと伺うのは誠におめでたい事でございます。

話を戻して將軍家の崇敬と共に諸候もその念篤く重要文化財の刀劍青銅灯籠を始めて沢山の刀劍、石灯籠を奉納して居ります。

明治維新成るや、長くも明治天皇は元年十一月勅使をお遣しになり騒然たる当時の国家の安隱を祈願遊ばされて居られ其後も奉幣の御事あり右の如く古来公武の尊崇篤き名社であります。御祭神は素盞鳴尊、大山咋尊、菅田別尊、大國主尊、菅原道眞命、五柱で諸厄災消除、方除、縁結、安産、学業成就の信仰が篤うございます。

尚、境内に「駒込」「乙女」両稻荷神社御鎮座、之の御社は徳川綱重公の下屋敷時代より奉斎せられ商売繁昌家内安全の御神徳の厚き事は参道に立並ぶ数多の鳥居が何よりも物語つて居ります。

最後に境内のつゞじについて申し上げます。そもそも神社の境内は江戸時代「つゞじが岡」と称しつゞじの名勝で江戸市民の行楽の地でもありました。永き年月を経て殆ど枯死致しましたが戦後社殿境内の修営の工を終えると共に御町内の皆様を始め氏子全般の方々の御熱誠により古の姿を再現したわけでございます。今やその種類卅余种、株数三千余株古にも勝る名勝として花

季には他県よりの人々の見物も多く非常な賑わいを呈します。

願えば四年にわたる大戦の末期、昭和廿年一月社殿に戦火を蒙り更に戦災に荒れ果てた神域、日そして現在の壮厳浄麗な御社頭の威容もとより御神威によるものながら偏えに皆様方の篤き御敬神の念による永年の御熱誠と御尽力の賜物と誠に有難く感謝措く能わざる所、この機に厚く厚く御礼申し上げます。

（昭和五十七年八月廿一日）

蓬萊歌壇へご投稿下さい  
蓬萊俳壇

次号（昭和五十八年一月発行予定）より「蓬萊歌壇俳壇」を設けます。

町会員の皆様のご投稿をお待ちします。採用の方には、町会より「記念品」を贈呈いたします。

ご投稿は、地区役員経由、または「はがき」にて左記宛お送り下さい。

締切日 昭和五十七年十二月末日  
宛先 向丘2-14-9 池田 暉

気付、蓬萊町会文化部

昭和57年6月から9月(4か月間)の  
町会活動の概要

防 化 部

十月には、「秋の防火運動」が行なわれます。これから寒さに向い、暖房等によって火災の多発時期になります。

互に火元には充分注意し、防火に励めましょう。

防 犯 部

9月28日 防犯運動打合せ会議 駒込警察署 於  
10月10日から20日までの間、第6回全国防犯運動が実施されます。

警察署の説明では、当町会で発生している空巢の被害は5件もあるそうです。(本年8月末現在)また、犯人の口口として、留守の家を見極めるには電気の配電盤をみて、メーターの回転速度が遅いと留守宅と判るそうです。

その他、駐車中の自動車内から金品が盗まれた被害も多発しています。車内に大事なものは置かない様ご注意下さい。

交 通 部

(3) 9月21日から10日間「秋の全国交通安全運動」が実施されました。この運動中には当町会の交通

部、婦人部の方々が街頭に於て交通安全の普及に参加しました。

当期の交通安全指導の重点施策は、二輪車の事故防止でした。特に普及の著しいミニバイクは、軽快な乗り物ですが、自動車との接触事件が急増しています。安全運転によって事故を未然に防ぎましょう。

衛 生 部

保健衛生会議には、町会から衛生部長が出席しております。

婦 人 部

9月14日 (月)敬老の日恒例行事  
ハセ天ぶら接待会 海蔵寺に於て

当町会婦人部の方が終日、天ぶら会の手伝いに協力いたしました。

当町会から高令の方々にお贈りするお祝品は、諸事の都合によって遅れており、誠に申し訳ございません。近日中にお届けいたしますのでご諒承願います。

共同募金についてご協力頂き、有難うございました。

文 化 部

只今、町会々員名簿を新たに発行すべく編集

中ですので、年内にはお配りできる予定です。

青 年 部

さる18、19日の祭礼では主軸となって活躍し、事故も無く、町内の祭礼として盛大に催すことができました。

町内皆様のご厚情に対し、厚くお礼申し上げます。

編 集 室

当期間には定例の会議等以外は比較的报告する内容はございませんでした。

町会活動に役立つご意見を、ぜひお聞かせ下さい。ご連絡は、文化部宛にどうぞお寄せ願います。

編集委員 連絡先(八三三)一三六五 池田

小林音吉 竹中一馬 猪熊良晃 高橋一郎

翁 松夫 池田 暉

※ 次回の発行は一月を予定しております。

計 報

当町会にお住まいの方で6月から9月までにご逝去された方のご氏名は左記の通りでございます。

謹んで弔意を申上げ、ご冥福をお祈りいたします。

奥澤幸一様

町 会 員 各 位 殿

蓬 萊 町 会 長 久 貝 貫 一

## 根津神社大祭に伴う当町会祭礼費用の収支決算報告

秋すでに深く、冷気も日々加わる候ともなりましたが、町会員の皆様には益々ご健勝の事と存じます。さる9月18日19日両日の根津神社大祭に於ては、すでに皆さまにはご周知の通り神輿・山車の修繕を行い、蓬萊町内の祭礼行事を賑やかに催すことができました。

これは一重に町会員皆様のご支援とご厚志のたまものと深く感謝申上げる次第でございます。なお、本年の祭礼に要しました諸経費は、下記にお示しいたしましたので、ご高覧下さるようお願い申し上げます。

## 1. 指 定 寄 付 金

先般、ご案内申上げました神輿等の修理費として受納しました寄付金は、町会理事会の議決を経て、下記の通り支出いたしましたので御報告申し上げます。

収 入 の 部			支 出 の 部			単位：円
収入項目	金額	摘 要	支出項目	金額	摘 要	
寄 付 金	6,000,000	S55.12.14受納 普通・定期預金	大 神 輿 修 理 費	3,813,000	山車を含む	
預 金 利 息	379,964		修 理 業 者 へ 祝 儀	200,000	土屋金属	
			引 取 雑 費	723,300	運送費その他	
			神 輿 提 灯	176,000		
			赤飯・手拭(祝賀用)	439,050	全会員へ配付	
			小 神 輿 修 理 費	1,020,000	発注済	
			鳳 凰 修 納 箱	180,000	"	
			神 輿 庫 整 備 費	450,000	"	
			残 高	29,584	防災積立へ振替	
合 計	6,379,964		合 計	6,379,964		

収支決算を上記の通り報告します。

町 会 長 久 貝 貫 一 ㊟

会 計 川 西 正 造 ㊟

## 2. 会 員 並 び に 一 般 寄 付 金

収 入 の 部			支 出 の 部			単位：円
収入項目	金額	摘 要	支出項目	金額	摘 要	
寄 付 金	1,915,000	371件より受納	寄 付 募 金 経 費	1,155,000	最中、印刷費	
			神 社 奉 納 金	131,000	神幸祭負担分	
			設 営 費	4,155,100	御酒所・御仮屋	
			神輿・山車渡御経費	817,355		
			消 耗 品 費	279,200	文房具・その他	
			雑 費	172,000	祭礼委員食事代	
			残 高	235,715	防災積立へ振替	
合 計	1,915,000		合 計	1,915,000		

収支決算を上記の通り報告します。

祭 礼 会 計 竹 中 一 馬 ㊟

堀 江 頼 治 ㊟

猪 熊 良 晃 ㊟

上記の件の決算について監査の結果、相違ないことを証明します。

昭和57年10月 2日

会 計 監 査 池 田 暉 ㊟